

平成20年2月22日

総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会  
核燃料サイクル安全小委員会

委員 \_\_\_\_\_ 様

三陸の海を放射能から守る岩手の会

核燃料サイクル安全小委員会会議に係わる要望書  
国民の不安を真摯に受け止め慎重なる審議をお願いします

謹啓

日頃、核燃料サイクル政策についてのご検討に敬意を表します。2月14日（木）の第13回小委員会では日本原燃（株）アクティブ試験のスケジュールが優先され第5ステップ入りが承認されたのは非常に残念でした。しかし、委員会での論議により原子力安全・保安院は第5ステップ中（1）ガラス固化体の試験製造を再開する前に具体的な運転方法を確認する（2）試験製造を再開した後の状況について再度確認することになりました。（1）（2）はいずれも原燃の報告を受け小委員会で審議される見込みと報道されております。

つきましては、以下の事項につきまして、嚴重に審査確認し発生廃棄物の処理処分をも含め決して環境を汚染することがないようご配慮いただきたくお願い申し上げます。高レベル廃液とガラス固化体についてはその想像を絶する危険性に、わたしたち周辺住民は非常に不安な思いで見守っております。各委員におかれましては未来を見据え、周辺住民や環境のことを親身にお考えいただき安全を第一に慎重審議をお願いいたします。

嚴重に確認していただきたい事項

- 1) ガラス溶融炉運転性能確認試験（ガラス固化運転が連続して実施できること）について  
原燃報告書による連続運転期間は溶融炉の「立ち上げ期間」であり、固化体中の廃液量が少なく定常状態とはみなすことができません。「定常状態での連続運転ができること」が条件と思われませんがどうでしょうか。
- 2) 処理能力確認試験（所定の能力70L/h以上で処理できること）について  
原燃報告書を検討しましたが、廃液供給量は所定の能力の半分ほどの値としか読みとれません。確認をお願いします。
- 3) 1100度C以下で製造されたガラス固化体は欠陥製品とみなされます。現在製造されているものの中で欠陥製品の本数をあきらかにしてください。このような製品が数万年地下埋設処分に耐えるのでしょうか。これはどう処分するとよいのでしょうか。
- 4) ガラス溶融炉底部に白金族元素が沈析しトラブルの原因になっております。今回使用された廃液の元となる使用済み燃料の燃焼度はどの程度だったのでしょうか。本格操業になると燃焼度は平均で45000MWd/t最大で55000MWd/tの再処理計画です。日常的に現在よりも高い燃焼度の廃液を使用することになります。低燃焼度でうまくいかないのに、高燃焼度のものがうまくいくはずがないと思われませんが確認をお願いします。
- 5) 安全第一です。未完の技術ならば完成するまで待たせて下さい、決してスケジュール優先はさせないようにして下さい。海洋大気的环境汚染はないようにお願いします。

（以上）

（連絡先）三陸の海を放射能から守る岩手の会  
世話人 永田文夫  
岩手県盛岡市山岸6-36-8  
（電話019-661-1002）